

フルヤ 古屋 ヤリ 鳳至郡仁行の内の小字。

フルヤ 古屋 珠洲郡大谷の内の小字。

フルヤガハ 古屋川 珠洲郡吉ヶ池領山から發し、大谷領で鶴岡川に合する。水源から落合まで二軒二許。

フルヤシキ 古屋敷 鹿島郡矢出郷に屬する部落。

フルヤシゲカタ 古屋重堅 通稱六郎左衛門・八郎兵衛。享保元年養父逸角行政の配分知二百石を受け、大小將に任じたが、十年御預となり、十一年八月廿七日能州園村に流離せられ、配所に於いて俸十人扶持を受けた。時に三十二歳。

フルヤシゲナホ 古屋重直 通稱所左衛門。父木工之助郷直は蒲生氏郷に仕へて四千石を受けたが、後浪人となつて江州河原村に在つた。重直文祿四年越中守山に於いて前田利長に仕へ、大坂後役には御使番として町口に権功があり、後物頭兼宗門改奉行に進み、祿三千二百石に至り、正保三年歿。子孫世々藩に仕へる。

フレイキ 富麗記 ↓カンチロン 官地論。  
フロヤ 風呂屋 金澤町會所留記元祿八年十月十六日の達書に『風呂屋向後新規に離相立、若商賣仕廻候者有之節は、其町之内に而替人可相立、他町之者は不相成。』といひ、同十年二月四日金澤風呂屋連署の請書に『今日被召出、湯風呂から風呂共御免被成、第一火の用心締密に致し、自今暮切に相仕廻、高聲不作法は勿論、風呂へ入る人等座敷へ呼入れ、茶・たばこ出し申間敷。又から風呂同日に一ヶ月六齋、其外留風呂仕間敷旨被仰渡奉

畏。』とあつて、から風呂は蒸風呂であらうが、後には行はれなかつた。又藩末安政七年(萬延元)廣瀬旭莊が金澤に遊んだ時の記事に『夜主税及び館人数輩と湯肆に浴す。主税をして諸具を護らしめ、余先づ館人と浴室に就く。槽陰にして人盈つ。余槽縁を越え、一脚中に在り一脚外に在り。内人推出し外人推入り、進退兩難大に苦しむ。館人衆を排し挽入る。男婦混蓋湯臭鼻を衝く。』といふものは、能く當時の風呂屋の事情を盡くしてゐる。

フロヤチガハ 風呂谷内川 鳳至郡古君領山から流出し、同領で海に注ぐ。流程九〇〇米許。

フロヤバシ 風呂屋橋 金澤大乘寺坂下なる江川の橋で、風呂屋町の橋であつた故の名稱である。今はこの橋名を傳へぬ。

フロヤマチ 風呂屋町 金澤の町名。大乘寺坂の下なる本多町を呼ぶ。此の附近昔は本多氏下邸の外で、町屋の間に風呂屋があつたため町名に呼んだが、後下邸内に取込められ、家士の屋敷となつても尙古名を稱へたのである。

フロヤランナ 風呂屋女 ↓バイジョ 賣女。

フワツユキ 不破篤敬 通稱長三郎・治部左衛門。寶永六年父弁六郎廣敬の後を受け、大小將組に班し、享保九年表小將となり、元文二年小松番頭に轉じ、寛延元年七月二日四十五歳を以て歿した。駕敬字は子行、號は梅關。伊藤祐之の門人で、程朱の道學に深く、詩も亦見るべきものがあつた。

フワイツキ 不破齋宮 美濃の浪士平野甚右衛門の弟。不破彦三直光に仕へて後に不破

齋宮と號した。その子不破光永、前田利長に仕へ、子孫藩に世襲したが、權左衛門時倫の時知行を召放された。  
フワイヘミツ 不破家光 ↓フワナホミツ 不破直光。  
フワカタアキラ 不破俊明 通稱千之助。伊織。父は數馬政忠。祿千石。延享二年大小將に班し、御郡奉行・大小將番頭を経て遂に組頭並に至り、明和八年八月廿七日四十四歳で歿。子千之助幼にして祿三の一を襲いたが、安永二年四月十日十三歳で歿し、家系斷絶した。  
フワカツツゲ 不破勝次 通稱彦三。寛永元年父光昌の歿後四千石を領し、正保中擢でられて金澤城代となり、慶安四年歿した。  
フワカツミツ 不破勝光 ↓フワナホミツ 不破直光。  
フワカヘエ 不破加兵衛 源六廣綱の弟。初め織田信雄に仕へた。後廣綱と共に前田利家に仕へ、侍従利政に隸し、大聖寺の役に従軍して功多く、二千石を賜はつたが、利政の封を失うた後、利長に臣事して千石を受け、次いで大坂兩役に出席し、元和二年歿。その子加兵衛は六百石を受け、富山藩分知の時之に従うた。  
フワゲンチヨウ 不破元澄 父は瑞元。享保年御醫師として六百五十石を受け、十九年七十石を加へ、延享元年五十七歳を以て歿した。  
フワシゲツナ 不破重綱 源六と稱した。父廣綱の歿後其の祿二千石を受け、馬廻頭となり、大坂の役に従軍して劊を受けた。寛永九年五月六日歿。

フワジユウダユウ 不破十太夫 延寶七年御居間坊主より起り、貞享四年六組御歩、元祿十二年奥附横目を経て、享保十年源光院御所頭として新知百石外に料二十石を受け、十六年政所様附御臺所頭に轉じ、元文三年御免、延享二年三月歿。子孫藩に世襲する。

フワセイベエ 不破清兵衛 彦三光昌の次子。織田織部の女を娶り、織田河内守の養子となつたが、後相續の命を得ざるを以て國に歸り、新知千石を受け、延寶中歿した。

フワタメアキラ 不破爲章 通稱左京・波江・彦三。安永六年養父彦三直廉の遺知四千五百石を襲ぎ、定火消・公事場奉行・寺社奉行・兼公事場奉行に歴任し、寛政三年御家老となり、五年若年寄を兼ね、享和三年十一月五十九歳を以て歿した。

フワタメカタ 不破爲像 通稱右京。正徳元年父爲貞致仕の後、その祿四千五百石を襲ぎ、享保三年四月定火消に任じ、五年八月御免、元文四年七十八歳を以て歿。

フワタメサダ 不破爲貞 通稱彦三。慶安四年父彦三勝次の遺知四千石を襲ぎ、後五百石を加へ、奏者番・寺社奉行兼公事場奉行・江戸御留守居・前田吉徳御附に歴任し、正徳元年致仕して宗元と號し、二年七十二歳を以て歿した。

フワタメタカ 不破爲實 通稱權左衛門・彦三。彦三爲周の弟で、その嗣となつたもの。文政七年閏八月遺知四千五百石を受け、八年十月定火消に任じ、十三年十月請うて之を免ぜられ、弘化三年閏五月歿した。

フワタメチカ 不破爲周 通稱英之助・彦三。享和三年父爲章歿後遺知四千五百石を襲

七三三